

## アプリ「あい作」試験導入



「あい作」の操作を親子で習う枝豆部会員（愛媛県松前町で）

【愛媛・まつやまし】JA松山市は、スマートフォンで栽培管理を記録できるアプリ「あい作」を枝豆部会で試験的に取り入れている。生産者の栽培管理簿の記入や提出にかかる労力の削減が期待できる。アプリ内の農業情報を活用することで、農業の適正使用の徹底にもつながる。他の生産部会でも導入を拡大する方針だ。

現在、部会員は手書きの栽培管理簿を出荷直前に支所へ提出しているため、指導員にA側のデータに反映される。届くまでにタイムロスがある。アプリは入力と同時にJ

# スマホで管理記録

## JA松山市 労力削減に期待

JAは農産物の生育状況をタイムリーに把握でき、出荷予測がしやすくなる。JAからの一斉通知も可能だ。

アプリでは農産物ごとに農業の登録情報の確認や、圃場（ほじょう）面積に応じた散布を自動で計算できる。農業使用履歴からは、収穫可能日がカレンダーで分かる機能などがあり、収穫前日数の間違いを防ぐことにも役立つ。

枝豆部会員を対象に1月下旬、管内の2支所で操作説明会を開いた。参加した28人が、NITデータの担当者や指導員から使い方を教わった。約7割の部会員がアプリを導入した。部会員の女性（72）は「アプリでの管理に不安はあるが、少しずつでも操作を覚えたい」と話した。

JAは今後も、麦やソラマメ、レタスなど各生産部会で説明会を開き、アプリの利用者数を伸ばしていく。